

小学校におけるネックガード(首部分の日除け布)付き体操帽子使用に関する陳情

陳情内容

小学校における紫外線・熱中症予防対策などを進める為、ネックガード(首部分の日除け布)付き紅白帽子の使用を選択のひとつとしてお認めいただきたく思います。

願意

昔から一般的に全国の小学校等で使用されている体操帽子について、近年の温暖化による夏の気温上昇及び紫外線も年々強くなっていることで熱中症対策として全国の保育園・幼稚園で広く普及しているネックガード(首部分の日除け布)付きの体操帽子を小学校でも幅広く使用を呼び掛け、熱中症のリスクを少しでも減らすように対策していただきたいと強く望みます。

毎年のように屋外での体育授業中に熱中症による救急搬送が起きています。熱中症のリスクは意識障害やけいれん、時には死に至ることもあり、水分補給はもちろんのこと、頭を守る帽子での対策も大変重要です。5月も中旬になりこれから暑い日が増えていくと思われま

す。日本の教育現場は前例がないことを変えるにはとても時間がかかります。速やかに市内の小中高、及び学用品販売店にも使用を呼び掛けていただきたいと思います。また、通学帽子がない学校も制帽を導入することを望みます。

仮にネックガード付きの帽子を家庭の判断で着用している児童がいたとして、日本の国民性、ましてや小学生の子どもは少数派の子どもを非難する姿も浮かびます。マスク同様、通達があれば抵抗なく使用する児童が増えると思われま

す。熱中症の危険をいまいちど考えていただき、ネックガード付きの帽子の重要性について理解していただければと思います。また、船橋市の公立保育園もネックガードなしの紅白帽子を使用していることについても考え直していただければと思います。

子どもの熱中症の危険性(世界保健機構(WHO)より)

- ・屋外での活動が活発で、一生に浴びる紫外線の半数以上を18歳までに浴びることになる。
 - ・子どもの頃から浴びた紫外線の総量が多いほど、将来の悪影響が起
 - ・子どもの皮膚は大人の半分ほどの薄さしかなく、紫外線の影響を受けやすい。
 - ・肌の細胞分裂が活発であり、DNAの突然変異が生じる可能性が高い。
- ・近年の地球温暖化による影響で5月～9月頃の最高気温が年々上昇し、熱中症による救急搬

送も増えている。

- 子どもは日陰を選んで遊んでいるわけではないため、直射日光が当たり熱中症の危険性が高まる。また、冬季は首元の保温にもなる。
- 後頭部には小脳をはじめ、運動機能を司る大切な機能が集中していることから後頭部も紫外線から保護する必要がある。後頭部や首筋も紫外線を浴び続けると熱中症を発症してしまう。
- 紫外線は直接降り注ぐだけでなく、地表で反射する。身長が低く、地表に近い場所にいる子どもたちは照り返しの影響を強く受けるため、首筋も紫外線から守ってあげる必要がある。

以上の理由につき子ども達を紫外線から保護する為に、現行の日除けなしのものより日除けつきの帽子の使用を広く呼びかけて頂きたいと思っております。